

# BAT Study and Conservation REPORT

コウモリ通信 Vol.3 No.2 1995.12



コウモリフェスティバル

第1回コウモリの会総会報告

コウモリの会の現況と会計報告

インフォメーション



コウモリフェスティバル

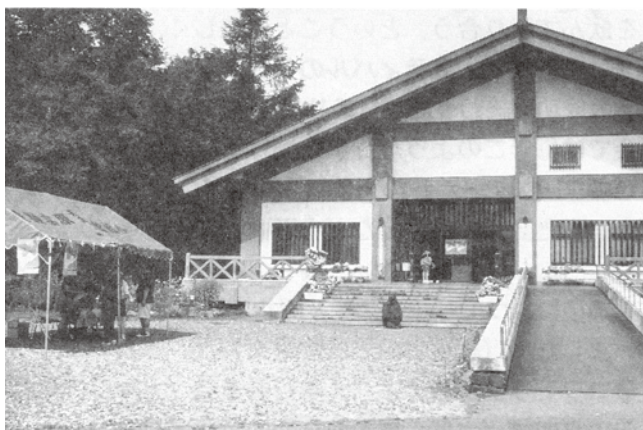
編集部

今年の8月5-6日、長野県乗鞍高原にある乗鞍自然保護センターと乗鞍高原国民休暇村にて、コウモリフェスティバルを開催しました。

奈良教育大学の前田喜四雄氏の呼びかけに賛同した十数人によって実行委員会が作られ、ほぼ半年がかりの準備により、無事、成功に終わりました。実行委員会以外にもたいへん多くの方々のご協力を得ました。講演を快く引き受けて下さった諸先生方、乗鞍自然保護センターと乗鞍国民休暇村の方々、また、宿泊の予約などを引き受けて下さった銀山荘さんなど、その他たくさんの方々のご協力なしでは行えなかったことでした。本当にありがとうございました。

## 【1週間の「コウモリ展」】

7月31日から1週間おこなわれた「コウモリ展」には、向山満氏、中川雄三氏、前田喜四雄氏、松村澄子氏などの写真パネルと、奈良教育大学学生さん達の作成によるイラスト入りコウモリ解説展示、前田氏の標本の他、コウモリに関する本や陶器、アクセサリ、凧、ぬいぐるみなどコウモリ好きの方々から出典されたものが展示室いっぱいになり、大変楽しいものになりました。また、コウモリグッズの販売も行われました。



7月31日から8月4日までのお客さんは、コウモリ展目当てに来た方よりも「乗鞍に来たらやっていた」という方の方が多かったようです。館に入った時は「コウモリ？」と不可解な顔をしています。解説ポスターや写真を見ているうちに「虫をこんなに食べるんだね」とか、「こんな顔しているんだ」と、今まであまりいいイメージをもっていなかったコウモリについて、見直した、という感想をもった方が多かったようです。（中にはどうしても標本が見れない、と逃げる女性もいましたが・・・）。また、第二会場だった休暇村では、お客さんが一番よく通るメイン通路の壁にコウモリの写真を飾っていただきました。夏休みともあって、毎日超満員のお客さんを迎える休暇村の通路に、コウモリの写真と解説、コウモリフェスティバルの案内などを掲示できたことは、たいへんいい宣伝になったと思います。

## 【いよいよフェスティバル本番！】

フェスティバル本番初日の8月5日には、朝からたくさんの方が自然保護センターに集まり、実行



コウモリグッズの販売やコウモリの展示はたくさんの人を集めました。

委員会が対応に走り回るほどでした。お客さんは前日までとは変わって、全国からコウモリ好きが集結したようなムードです。それまで、ぼちぼちしか売れていなかったコウモリグッズも飛ぶように売れ、売店の売り上げ総額は、全部で86万8,394円にもなりました。盛り上がったムードで開会式が、そして各先生方の講演が始まりました。会場には長野のNHKや新聞局が取材に来て、実行委員会のメンバーは楽しみにしていた諸先生方の話もろくに聞けないほど忙しく、ちょっとくやしい思いをしました。

### 【観察会に120人も】

夕方行われた巣箱づくりワークショップとコウモリ観察会にもたくさんの方が参加されました。全国から集まったコウモリファンと、地元の方たち、それから何気なく参加された方たちなど、観察会参加者は全部で120人にもなりました。観察時の注意点などの説明があったあと、幾つかのグループに分かれてコウモリの採餌場になっている街灯で採餌の様子を観察した後、ナイトルースト（夜の休み場）を赤いセロファンをした懐中電灯でそっと照らしてプロミナで観察しました。コウモリの姿をしっかりと見たのは初めてという人が多く、皆感激していました。また、バットディテクターを使って上空を翔ぶクビワコウモリの声を聞いて楽しみました。

### 【豚のまるやきとオークションの懇親会】

観察会終了後は、銀山荘にて懇親会が行われました。この時のために講演も聞かずに1日ばかりで豚の丸焼を作った赤沢氏はじめ3人のメンバーと、お庭と宴会場をご提供いただいた銀山荘の方、本当にありがとうございました。

懇親会では、橋本肇氏寄贈の九州球磨村森林組合のコウモリ焼酎（コウモリが入ってるわけではありません・・・）のオークションが行われ、4本のミニ焼酎を争って原価数百円？が数千円にもなりました。各地のコウモリ研究者とアマチュアの自然愛好家、学生などが、一つの部屋でザックバランにお酒を飲んで語り合う、ということは楽しく、有意義なことだと思いました。

### 【コウモリフェスティバルのこれから】

大成功に終わったコウモリフェスティバルでしたが、主催者である実行委員会の負担が大きく、反省会では毎年このような行事を続けるのは無理だ、という声が多かったようです。コウモリの会ではこのフェスティバルの経験を生かして、コウモリに関するシンポジウムや観察会、コウモリ調査の研修会、また会員の交流会などを計画し、無理のないペースで進めていければ、と考えています。

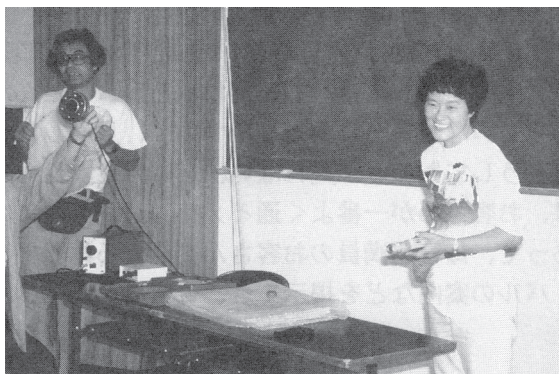
最後にコウモリフェスティバルで活躍された方々をご紹介します、感謝の意を表します。ありがとうございました。（講演者の方は除きました。同封のプログラムをご覧ください。）

### ●コウモリフェスティバル実行委員会（カッコ内は担当分野）

前田喜四雄（主催、展示物ほか）、山本輝正（村との交渉、マグカップ作成）、赤沢 泰（実行委員長）、林 聡彦（進行、Tシャツ作成）、千々岩哲（巣箱講習会）、水野昌彦（パンフなど印刷物作成）、越山寛子（子供むけ行事）、上村博史（ポスター、パンフなどのデザイン）、植木康徳、橋本肇、吉川 登（広報活動、観察会）、三笠暁子（人形劇、売店）。

### ●当日スタッフ

奈良教育大学の学生さん達（展示、ミュージカルとコンサート）、信州大学自然研究会（売店、Tシャツ作成）、前田良子（グッズ作成）、安井さち子、上条隆志（スライド、ビデオプロジェクター係）、



バットディテクター講習会は、一般の方のみならず研究者の方々にも大好評でした。

重昆達也（ビデオ係）、野口郊美（売店、展示）、今関真由美（ミュージカル、人形劇）、研谷誠一、久田佳子、足立洋一（人形劇）、橋本信宏（売店）、北山元章、菊本竜弥（豚の丸焼）、日根野美則（案内用ポスター作成）。

●その他にご協力いただいた方々

藪内正幸（クビワコウモリの細密画）、小川富士夫（コウモリ扇子、うちわ作成）、加藤美子（コウモリベスト作成）、前田 健（ステッカー、Tシャツ作成）、松村澄子（コウモリブローチ、ポータイ）。



生きたコウモリを連れてきてくれた研究者の方がいて、初めてコウモリを見た人には強烈なインパクトを与えたようです。



編集部

会員の皆さんには葉書で事前にご案内したように、9月30日（土）京都の哺乳類学会の会場をお借りして、「第1回コウモリの会総会」が開かれた。総会に参加したのは会員、非会員を合わせて40名前後で、コウモリの保護や調査など、今後対外的な活動をしていく時のために、コウモリの会の会則の制定および役員を選任が行われた。さらに、コウモリフェスティバルの結果報告や西表島のコウモリの現況報告など、ホットな話題を中心に今後のコウモリの会をどのように進めていけばよいのか話し合われた。

コウモリの会会則（1995年10月1日施行）

第1章 総則

- 第1条 「名称」 本会はコウモリの会と称する。
- 第2条 「目的」 本会はコウモリに関する知識の進歩と普及を図るとともに、コウモリの研究や保護の問題にも取り組む。併せて会員相互の交流を促すことを目的とする。
- 第3条 「事業」 本会はその目的を達成するために、次の事業を行う。
  - 1 各種見学会、観察会、談話会、研究発表会、講演会、催し等。
  - 2 会誌「コウモリ通信（Bat study and conservation report）」等の発行。
  - 3 関係諸団体、諸学会、諸機関との連絡。
  - 4 その他、本会の目的達成に必要な事業。

第2章 会員

- 第4条 本会に入会を希望し、別に定める会費を納めた個人、法人、機関および任意団体。
- 第5条 「入会」 本会に入会を希望するものは、会費をそえて本会事務局に申込む。
- 第6条 「権利」 会員は次の権利を有する。
  - 1 本回主催の各種行事、総会に出席すること。
  - 2 会誌、その他の印刷物の配付を受けること。
  - 3 会誌および会の発行する印刷物に投稿すること。
  - 4 本会役員選挙権と被選挙権。ただし、団体、法人、機関会員は除外される。
- 第7条 「義務」 本会の目的に賛同し、会費を前納する義務を有する。
- 第8条 「退会」 退会しようとするものは本会事務局にその由を届け出なければならない。なお、会費未納のものは、自然退会となることもある。

第3章 役員

- 第9条 「種別」 本会に次の役員をおく。会長1名、事務局長1名、編集委員長1名、他の評議員5名の合計8名。
- 第10条 「選出」 各種役員は総会において会員の互選により選出する。
- 第11条 「任期」 役員は任期は10月1日から翌年の9月30日までの1年とする。
- 第12条 「会長」 会長は本会を代表し、会務を統括する。

第4章 機関

- 第13条 「総会」 総会は最高決定機関であり、会務その他総会および評議員会が必要と認めた事項を議決する。
- 第14条 「評議員会」 評議員会は会長、事務局長、編集委員長、評議員で構成し、会長が議長となる。評議員会は必要に応じて会長が召集し、会の運営方針等を審議執行する。
- 第15条 「事務局」 事務局は会長を助けて会務を運営する。

第16条 「編集委員」 会則第3条第2号の事業を実施するため、編集委員をおく。

#### 第5章 会計

第17条 「経費」 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。会費は前納制とし、会計年度は10月1日から翌年9月30日までとする。

#### 第6章 会則の変更

第18条 「手続き」 会則の変更は評議員によって提案され、総会において出席会員の3分の2以上の賛成を得て決定する。付則

第1条 本会則は1995年10月1日より施行する。

第2条 会員の会費は年額 1,000円とする。

#### 選任結果

会長：前田喜四雄 事務局長：三笠暁子 編集委員長：水野昌彦 評議員：赤沢泰 松村澄子 向山満 安井さち子 山本輝正



## コウモリの会の現況および会計報告（1995年11月30日現在）

### 事務局

会計年度は9月30日で締めになりますが、コウモリの会の呼びかけが1992年に行われてから今まで会計報告を怠ってききましたので、1995年11月30日現在でコウモリの会の運営面での総括をしておきたいと思います。

1. 会員数： 190名（個人会員のみのみ）

2. 会計報告（1992年～1995年11月30日）

●歳入	会費およびカンパ計	357,940円
●歳出	郵送料（切手、葉書等）	94,430円
	会報作成費用（版下代等）	17,999円
	封筒印刷代	32,064円
	会報印刷代（Vol3 No1）	30,900円
	その他雑費（ファイル等）	7,344円
	総計	182,737円
●繰り越し金		175,203円

会報作成にあたっては、当初部数が少なかった内はコピーで作成していましたが、会員数が増えたためVol.2 No.1（第5号）からは印刷（刷り部数500部）に移行しました。なお、琢美印刷さんのご好意により、Vol.2 No.1の会報印刷代および会の封筒（1000枚）を寄贈していただきました。

## BAT INFORMATION

#### ■事務局住所移転のお知らせ

コウモリの会事務局の住所が変わりました。新しい住所、電話番号は

FAXは今までどおり、

■今回は編集部で制作した臨時号でしたが、次号のコウモリ通信は今まで通り皆さんからのコウモリ情報満載で96年1月末頃発行する予定です。原稿は随時受け付けておりますので、コウモリの情報をぜひお寄せください。原稿をくださった方は、ささやかながら会費1年分を無料にさせていただきます。

■三重県の佐野明氏より、キクガシラコウモリのビデオをいただきました。これは白山自然保護センターの方が撮影されたもので、白山麓

にある管理センターの車で、今年の秋に観察されたキクガシラコウモリの小群の様子が収録されています。ご覧になりたい方には期間限定でお貸ししますので、事務局まで270円切手を添えてお申し込み下さい。

#### ■入会案内

\*申込方法 ハガキに住所、氏名、電話番号をお書きの上、事務局までお送り下さい。\*年会費1000円。お振り込み先は、郵便振替口座：00270-4 -12189 口座名：コウモリの会。\*連絡先

### コウモリ通信 Vol.3 No.2 1995.12

（通巻第7号）

- シンボルマーク 村上 康成
- 編集 三笠 暁子・水野 昌彦

発行：コウモリの会

【編集後記】◆遅くなりましたが、夏に行われたコウモリフェスティバルの様様をお伝えします。初めての試みで、なおかつ仕事をかかえた忙しい方々ばかりの実行委員会でしたが、多くの人達の協力で大盛況のうちに終わることができました。◆コウモリの会の総会が開かれて、会則や役員が決まりました。これは、今後コウモリに関する保護活動を行う場合の対外的な交渉や、研究の補助金を受ける場合などに必要とされるためです。

©1995 Bat Study and Conservation Group of Japan